

---

## 7月26日更新 津島市立南小学校で出前授業を行いました。

---

調査研究課の尾崎です。

7月14日(木曜日)に津島市立南小学校で出前授業を行いました。授業を受けたのは第6学年2クラス、40名の児童のみなさんです。

今回の出前授業は「織田信長の生きた時代を考える」という大きなテーマを設定し、授業を前半と後半に分けて展開していきました。

前半は、パワーポイント、教科書を用いて信長について学習していきました。

はじめに、信長の果たした業績について復習していきました。「信長についてどんなことを知っていますか？」と私が問いかけると、「長篠の戦いで鉄砲を使った」「本能寺の変で明智光秀に攻められ、亡くなった」などの返答が返ってきて、みんなよく学習していると感心しました。

その後、教科書に掲載された、[長篠合戦図屏風](#)を見ながら、織田・徳川連合軍、武田軍がそれぞれどのような戦い方をしているのか、戦場はどんな様子であるのかなどを考えていきました。この時も児童のみなさんに問いかけて、意見を言ってもらいました。返ってきた意見は様々で、「このような点にも着目しているのだな」と私自身も勉強になりました。

後半は、遺跡から出土した遺物をみなさんに手に取ってもらう、アクティブラーニングを行いました。今回は、[清州城下町遺跡\(清須市\)から出土した天目茶碗、鍋、すり鉢、長篠古戦場近くの石座神社遺跡\(いわくらじんじゃいせき\)\(新城市\)から出土した鉛製の鉄砲玉](#)を用いました。

実際に遺跡から出土した土器、鉄砲玉を手にとると、児童のみなさんの目の色が変わったのがよく分かりました。遺物に触れながら「思っていたよりも軽い」「どうして煤(すす)が付いているのかな」「つるつるしてる」などの意見をみんなで交し合いながら、遺物の特徴、用途などを考えていました。特に鉄砲玉については、みなさんが関心を持っているのがよく伝わってきました。



出前授業の様子

---

7月26日更新 みよし市の文化財保護委員の方々が施設見学のため来館されました。

---

調査研究課の尾崎です。

7月7日(木曜日)にみよし市の文化財保護委員の方々が施設見学のため来館されました。はじめに、職員の説明を受けた後、館内を見学しました。発掘調査で出土した遺物を保管する収蔵庫、展示スペースである資料管理閲覧室、一次整理作業室などを順に見学していきましました。見学したそれぞれの場所で、職員の説明に「そういうことか」「なるほど！」などと相槌を打たれる姿が印象的で、私自身もうれしく思いました。

当センターでは団体の施設見学を受け付けております。御希望がありましたら下記まで御連絡下さい。



施設見学の様子

## 7月26日更新 第29回埋蔵文化財調査研究会が開催されました。

---

調査研究課の尾崎です。

7月1日(金曜日)に当センターで**第29回埋蔵文化財調査研究会が開催されました**。この研究会は愛知県の各市町村の文化財担当者が集まり、各地の発掘調査で得られた成果を共有する場として毎年開催されています。今年度は52名の方に御参加いただきました。

今年度の発表内容は以下のとおりです。

船山1号墳の発掘調査成果(豊川市教育委員会 天野雄矢氏)

長先遺跡の発掘調査成果(安城市教育委員会 石原奈緒子氏)

岡崎城跡菅生川端石垣発掘調査・阿知和石切場分布調査(岡崎市教育委員会 山口遥介氏)

天白元屋敷遺跡の発掘調査成果(名古屋市教育委員会 野澤則幸氏)

名古屋城三の丸遺跡の発掘調査成果(名古屋市教育委員会 水野裕之氏)

尾張国分寺跡の発掘調査成果(稲沢市教育委員会 田中俊輔氏)

小牧山城の発掘調査成果(小牧市教育委員会 小野由記子氏)

笹平遺跡の発掘調査成果(愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁氏)

菅ノ口A遺跡の発掘調査成果(愛知県埋蔵文化財調査センター 成瀬友弘氏)

どの発表もたいへん興味深いものばかりで、愛知県の歴史を語る上で欠かせない遺跡ばかりだと感じました。今後調査成果が発掘調査報告書として公表されることが楽しみです。





研究会の様子

---

#### 7月4日更新 弥富市立弥富北中学校の生徒さんが職場体験に来ました。

---

調査研究課の尾崎です。

6月21日(火曜日)に**弥富市立弥富北中学校の生徒さん5名が職場体験に来ました**。はじめに**開講式**を行いました。生徒のみなさんは、職員の話真剣に聞いており、「これから3日間一生懸命仕事に取り組むぞ」という思いが伝わってきました。

開講式を終えた後、午前中は**ガイダンス**を行いました。

ガイダンスでは、まず職員から**埋蔵文化財とは何か、調査センターの仕事と発掘調査について学びました**。その後、職員の案内でセンター内を施設見学しました。職員から問いかけられたことに対して、真剣に考えて答えようとしていた様子が印象的でした。

午後からは**土器の接合作業**を行いました。

土器の接合は、遺跡から出土した土器の破片を一つ一つジグソーパズルのようにつなぎ合わせていく作業です。実際にやってみるとよく分かるのですが、大量の土器片の中から、接合できる土器を探すのが大変で、なかなか接合できないのです。生徒のみなさんはそれでも一生懸命に取り組み、中には土器の形が分かるまで接合できた生徒さんもありました。接合できた瞬間の「やった！」という表情がとても印象的でした。

2日目の6月22日(水曜日)は、午前**に土器の拓本、実測**、午後からは**遺物の貸出、返却作業**に取り組みました。

**土器の拓本、実測**は調査センターで働く作業員さんに教わりながら行いました。**拓本は土器の模様を写しとる作業で、実測は三角定規などを用いて、土器の形、厚みなどを計測し、図面を作成する作業です。**

**拓本作業**では、みなさん次々と土器の模様を写しとっていた姿が印象的でした。模様もきれいに写しとれており、初めてなのにすごいなと感じました。

**実測作業**では、拓本作業とは対照的に、とても苦戦している様子が見受けられました。集中しすぎて汗をかいてしまったという生徒さんもいました。自分も初めて実測をした時、汗をかいたことを思い出しました。

これからの中学校生活、高校生活では拓本、実測をすることは無いと思いますが、大学へ進学し、考古学を専攻して再び挑戦してもらいたいです。

**資料の貸出作業**では、まず作業員さんに手順を教わり、県内の博物館から借用希望のある資料を取り出す作業を行いました。収蔵庫の中は広く、大量のコンテナがあるのですが、生徒のみなさんはその中から一人一人が割り当てられた資料を見つけ出すことができました。この日は資料の返却作業があったので、貸し出していた資料をもとのコンテナに戻す作業にも取り組んでもらいました。

3日目の6月23日(木曜日)は、**自然科学分析と図書整理**に取り組みました。

自然科学分析では、埋蔵文化財センターの担当者から自然科学分析についての概要の説明を受けた後、顕微鏡を使って遺跡から出土した種実、花粉の分析を行いました。パソコンの画面に映る拡大された種実、花粉を見ながら「これも花粉じゃないかな」と話し合っていた様子が印象的でした。

休憩後、1階の水洗洗浄室で化石を取り出す作業、遺跡から持ち帰ってきた**土の洗浄作業**に取り組みました。

**化石を取り出す作業**では、岐阜県瑞浪市にある1700万年前の地層から採取したサンプルを対象に行いました。1700万年前の地層サンプルは岩石のように固く、釘、ハンマーを使って作業を進めていきました。地層の中には主に貝の化石があり、生徒のみなさんはそれを取り出すために、貝を割らないように慎重に作業していました。

**土壌洗浄**は発掘現場では見落としてしまうような**小さな遺物、種実、昆虫などを見つけるために行う作業**です。これを行うことによって、はるか昔にその場所にどんな生き物がいたのか、どんな植物が生えていたのかなどを知ることができ、当時の環境を復元する手がかりとなります。

生徒のみなさんはこの作業をとて気に入り、はじめはコンテナ1箱の土を洗浄する予定でしたが、予想外に作業が進み、2箱目に突入するほどでした。

**図書整理**では、全国各地の博物館、資料館、研究機関などから郵送されてくるリーフレットの整理を行いました。リーフレットを都道府県、地域別に分類しているときに、みんなで声を掛け合って作業を進めていました。最後まで手を抜かず、一生懸命作業しており、さすがだなと思いました。

最後にこの3日間の取り組みについて感想文を書いてもらい、その後閉講式を行いました。

弥富市立十四山中学校に続き、当センターで2回目の職場体験の受け入れでしたが、生徒のみなさんに私たちの仕事を知っていただく良い機会であると感じました。私たちの次の世代にも考古学に関心を持っていただき、ぜひこの仕事を志してもらいたいと思っています。

最後になりましたが、3日間職場体験に協力してくださった埋蔵文化財センターのみなさん、ありがとうございました。











一段目:接合作業の様子

二段目:拓本の様子

三段目:実測の様子

四段目(左):資料の貸出の様子

四段目(右):土壌洗浄の様子

五段目(左):図書整理の様子

五段目(右):感想を書いている様子

---

**6月24日更新 当センター所蔵の朝日遺跡から出土した重要文化財が愛知県陶磁美術館に運搬されました。**

---

調査研究課の尾崎です。

6月20日(月曜日)、21日(火曜日)に**当センター所蔵の朝日遺跡から出土した重要文化財が愛知県陶磁美術館に運搬されました。**

下の写真は、重要文化財の土器、木器などを梱包している様子です。運搬中に資料が壊れないように綿枕で資料を覆い、通常の段ボールではなく厚みのある梱包用の段ボールに詰めています。

これら資料は**愛知県陶磁美術館で開催される特別展「あいちトリエンナーレ2016特別連帯事業／企画展 弥生への旅 朝日遺跡－2000年前のキャラバンサライー」**に展示されます。

**開催期間は7月2日(土曜日)～8月28日(日曜日)です。**この期間を逃すことなくぜひ愛知県陶磁美術館に御来館ください！



資料の梱包の様子

---

6月23日更新 立命館大学文学部考古・文化遺産ゼミの方々が施設見学のため来館しました。

---

調査研究課の尾崎です。

6月19日(日曜日)に立命館大学文学部考古・文化遺産ゼミの方々が施設見学のため来館しました。

当日はあいにくの雨でしたが、木立雅朗先生、高正龍先生、長友朋子先生の引率のもと、23名の学生のみなさんが来館してくださいました。はじめに資料管理閲覧室、収蔵庫Cの展示や収蔵庫Dの遺物収納状況などを見学し、その後、研修室で職員からの朝日遺跡の簡単な解説を受けました。

説明を受けた後、職員があらかじめ用意していた朝日遺跡から出土した**円窓付土器**(まるまどつきどき)、**赤彩土器**(せきさいどき)などや、廻間遺跡(はざまいせき)の**S字状口縁台付甕**(えずじょうこうえんだいつきがめ)を直に触れ観察し、各土器の調整方法、土の違いなどについて熱心に議論していました。余りの熱心さに時間がたつのを忘れ、危うく予定の時間をオーバーしそうになったほどです。

立命館大学のみなさま、雨のなか、御苦労さまでした。また是非とも研究のために当センターを御活用ください。

**当センターは考古学を研究する研究者の方々のために、遺物の実見や図書館を開放しております。**いずれも利用は原則、平日の午前9時から午後4時までです。御希望の方は事前に当センターに電話で御連絡ください。

\* 朝日遺跡(あさひいせき): 東海地方を代表する弥生時代の遺跡。清須市から名古屋市西区におよぶ、遺跡内には国指定の史跡貝殻山(昭和46年指定)があり、出土遺物のうち、2028点が平成24年国の重要文化財に指定されている。

\* 円窓付土器(まるまどつきどき): 壺の胴部の上部に焼く前から丸く穴をあけたもの。使用法については謎のままである。

\* 赤彩土器(せきさいどき): 白っぽい土の器面に赤く色をつけた土器。その優雅な姿から「パレス式土器」とも呼ばれている。

\* 廻間遺跡(はざまいせき): 清須市に所在する。集落と墓域が確認され墓域では前方後方型の周溝墓が検出された。

\* S字状口縁台付甕(えずじょうこうえんだいつきがめ): 古墳時代のはじめに出現する台付の甕。口縁部の特徴からS字甕と呼ばれている。



施設見学の様子